

## 本学剣道部（女子）中四国学生剣道大会で準優勝

### 中四国代表として12年連続

### 全日本女子学生剣道優勝大会出場を決める

平成22年8月29日（日）、岡山県総合文化体育館に於いて開催された第37回中四国女子学生剣道優勝大会（団体戦）において、本学剣道部（女子）が準優勝した。同時に中四国代表として12年連続での全日本女子学生剣道優勝大会（全日本団体）出場を決めた。

また、恩田矩美（社会福祉学部4回生）が優秀選手に選出された。

#### 【大会報告】

##### 1) 学生剣道の試合とは

学生剣道公式試合は女子4分、男子5分、いずれも3本勝負、有効打突を2本先取するか（2本勝ち）、1本取って制限時間になれば勝ち（1本勝ち）。時間切れの場合には引き分け。女子団体戦では、女子は先鋒（1番目）、次鋒（2番目）、中堅（3番目）、副将（4番目）、大将（5番目）というポジションで戦う5人戦である（男子は7人戦）。大会前に7名の選手をエントリーし、その7名の選手の中で自由にオーダーを変更することができる。対戦相手の戦力、剣風、オーダー等を考え、戦略的にオーダーを組み替えながら戦うことも必要とさせる。

##### 2) 本学剣道部員の活躍

予選リーグ（第8ブロック：聖カタリナ大学、松山大学、下関市立大学）。1位だけが通過できる予選リーグで松山大学との対戦で大きな山場が訪れる。松山大学は近年スポーツ推薦制度を活用し、高校時代に優秀な剣道実績をあげた選手を多く入学させ実力をつけている。試合は、先鋒・次鋒引き分けの後、中堅戦で1勝をあげた松山大学がリードして大将戦を迎える。後がない本学チーム、ここで大将・恩田（社福4回生）が値千金の面を1本決め、土壇場で試合を振り出しに戻した。結局、松山大学戦は引き分けとなる。だが、下関市立大学との対戦で松山大学より多く勝ち数を取得した本学が得失点差上位で予選1位通過を決めた。

決勝トーナメント1回戦は、第9ブロックを勝ち上がってきた広島文教女子大学。本学はこの試合にスコア4-0と快勝した。

決勝トーナメント2回戦（準々決勝）は、全日本大会出場をかけて環太平洋大学との対戦。環太平洋大学は、4年前に開学（2007年4月）し、体育学部や次世代教育学部を持ち全国から多くの部員を集め、急激に実力を伸ばしてきたチームである。前回・前々回大会ともに準優勝している環太平洋大学との対戦は厳しい試合が予想され、今大会2つ目の山場であった。

先鋒戦、先手を取ったのは本学。林（保育1回生）が豪快な面を決め1本勝ち。次鋒は引き分け。続く中堅戦の後半、迫（社福4回生）が鮮やかに面を決め、そのまま1本勝ち。副将が引き分ければ勝利する本学。一方で逆転をねらうためには絶対に勝利するしかない環太平洋大学。激しい攻防が展開される中、本学副将・宮川（社福3回生）が最後まで集中を切らさず制限時間となる。副将戦を引き分けとしたことで本学の勝利が決定した。さらに、大将・恩田（社福4回生）は、環太平洋大学のエースである大将・堅田に面を2本決めて勝負に終止符を打った。スコア3-0。この瞬間、中四国学生剣道連盟では類を見ない12年連続全日本大

会出場を手中に収めた。

決勝トーナメント3回戦（準決勝）の相手は徳山大学。今大会、抜群の集中力で厳しい試合を勝ち抜いてきた本学チームは、昨年3位の徳山大学の攻撃にも崩れることはなかった。先鋒・次鋒引き分けの後、中堅・迫（社福4回生）があげた1勝（面2本勝ち）を副将・大将がきっちりと守り、スコア1-0で本学が勝利し、決勝進出を決めた。

決勝戦の相手は現在3連覇中の広島大学。是非昨年のリベンジを図りたい本学は最後の勝負にすべてをかける。激しい試合の連続で筋肉が張り疲労している者、慢性のケガの状態が悪化している者、コンディションは十分と言えないが、この時点でそれをとやかく言う者は誰もいない。皆静かに闘志をみなぎらせて決勝の開始を待った。

試合序盤から一進一退の攻防が続く。先鋒・次鋒が引き分け、中堅戦、本学迫（社福4回生）に対して広島大学は全日本学生個人3位の島添選手。試合後半、島添の面に旗があがる。迫も惜しい技を繰り出すが有効打突にはならず。そして、試合終盤、二人は同時に面に跳ぶ。迫の面に思えたが審判の判定は無情にも相手の面にあがり、広島大が1勝をあげた。その後、副将が引き分け、勝負の行方は大将戦に。ここまで大活躍の本学大将・恩田と相手の大将・土井の戦いは今大会の最後を飾るにふさわしい充実した内容であった。両者一步も譲らず自分の持つ力のすべてを出し尽くす姿は観客をも感動させた。やがて4分間の制限時間となり、スコア0-1で広島大学の優勝が決まった。本学は優勝には後一步及ばなかったが、その内容は絶賛された。勝負には敗れたけれど悔いは無かった。皆の顔はとても晴れ晴れとしていた。

また、男子剣道部員も男子団体戦にエントリーしたが、部員が足りないため7人戦を2名少ない5名で戦った。結果は予選リーグ敗退であった。だが、来年度は男子も7人のメンバーがそろい、戦力は今以上になることが予想される。剣道には「打って反省、打たれて感謝」という言葉がある。男子部員は今回の結果に意気消沈することなく、今後も修練を重ねて欲しい。

近年、地方の国立大学でも高校時代のスポーツ業績を評価して入学させる制度が大きく拡大している。広島大学でもこの制度を導入することにより、現在、全国トップクラスの選手が多く入学し、チーム力は全日本でもベスト4に入る。また、今年5月に開催された西日本学生剣道大会のベスト4には中四国連盟から2チーム（広島大学、香川大学）が入っている。このことから分かるように中四国ブロックの学生剣道レベルは上昇している。この状況をネガティブに考えるならば、「中四国で勝利することが難しくなる」と言えるが、一方で、ポジティブに受け入れるならば、身近に強い選手・チームがたくさん存在することで切磋琢磨が進み、「全日本で勝利するだけの個人の力・チーム力が高まる」と考えることもできる。

12年間連続して全日本大会へ出場することは中四国学生剣道連盟の歴史上に存在しないし全国でも希である。この偉業を支えているのは、むろん剣道部員達のひたむきな努力であるがそれだけではない。剣道部を支えてくれる人達のお陰である。実習の日程を調整して下さっている先生方、部の活動運営に協力して下さっている職員の皆さん、同窓会や後援会。いわば大学全体のサポートによってこの結果と歴史がつけられている。このことは剣道部員もしっかりと理解しており、いつも感謝している。

最後になり、たいへん恐縮ではあるが、改めて日頃から剣道部の活動に対して応援と協力を頂いている教職員の皆さんに私からも感謝申し上げたい。

今後、今回の試合で得た課題を修正し、11月14（日）愛知県春日井市総合体育館を会場として開催される第29回全日本女子学生剣道優勝大会に臨みたい。

なお、大会結果は中四国学生剣道連盟 HP に掲載されていますのでご覧ください。  
[http://www.tyushi.net/combination\\_result/tyushi/tyushi\\_combination.html](http://www.tyushi.net/combination_result/tyushi/tyushi_combination.html)

### 第 37 回中四国女子学生剣道優勝大会（団体戦）準優勝メンバー

- |                     |             |              |
|---------------------|-------------|--------------|
| 1. 恩田矩美（おんだくみ）      | 社会福祉学科 4 回生 | 島根県横田高校出身    |
| 2. 迫 美由紀（さこみゆき）     | 社会福祉学科 4 回生 | 鹿児島県神村学園高校出身 |
| 3. 宮川千絵美（みやがわちえみ）   | 健康スポ専攻 3 回生 | 愛媛県丹原高校出身    |
| 4. 鎌倉奈央（かまくらなお）     | 健康スポ専攻 3 回生 | 広島県神辺旭高校出身   |
| 5. 藏ヶ崎みさと（くらがさきみさと） | 健康スポ専攻 3 回生 | 鹿児島県神村学園高校出身 |
| 6. 林 美咲（はやしみさき）     | 保育学科 1 回生   | 宮崎県日章高校出身    |
| 7. 山畑佳代（やまはたかよ）     | 保育学科 1 回生   | 香川県高松中央高校出身  |
| 主務 佐藤友紀（さとうゆき）      | 社会福祉学科 4 回生 | 宮城県仙台育英高校出身  |



（文責：剣道部部长・監督 矢野宏光）